

令和 6 年 4 月 19 日現在

機関番号：34315

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2020～2023

課題番号：20K12442

研究課題名（和文）グローバルなアジア世界の共生を志向するポリフォニック・ツーリズム（多声的観光）

研究課題名（英文）Polyphonic Tourism for Asian Diversity in Global Age

研究代表者

遠藤 英樹（Endo, Hideki）

立命館大学・文学部・教授

研究者番号：00275348

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,100,000円

研究成果の概要（和文）： グローバルな現代社会を多様な他者ととも生きるためには、「差異性」や「新奇性」を積極的に受け容れる「開かれた思考」が必要になる。これを醸成し「異なる価値観・文化・経験・民族・性・階層・信仰等を有する人々が共生するうえで、観光はどのような役割を帯びているのか」。これを考察する研究が観光研究において強く求められている。本研究は価値観や経験等における多様な差異を越え、人々がしたたかにダイバーシティを有しつつグローバルなアジア世界の中で相互に共生することをうながす「ポリフォニック・ツーリズム（多声的観光）」を新たに検討した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

アジア とくに東アジアと東南アジア の人々が、多様で異なる価値観・文化・経験・民族・性・階層・信仰等を越えて、ダイバーシティを有しつつも、「現在、観光を契機にして、いかにしたたかにグローバルでモバイルなアジア世界の中で相互に共生することができているのか」、「できていないのだとすれば、それは何故どのようにして、できていないのか」、「そして今後いかにポリフォニック・ツーリズムを洗練させていくのか」について、理論研究およびフィールド調査を通じて一定程度明らかにできた。

研究成果の概要（英文）： In order for people from diverse backgrounds to live together in a global modern society, it is necessary to have an open mind that actively accepts differences and novelty. What role does tourism play to foster this open mind and for people with different values, cultures, experiences, ethnicities, genders, classes, beliefs to coexist? Researching this is strongly needed in tourism researches. This research explored polyphonic tourism, which transcends diverse differences in values and experiences, and encourages people to coexist with each other in the global Asian world while maintaining each diversity.

研究分野：観光社会学

キーワード：ポリフォニック・ツーリズム ダークツーリズム グローバル社会 ダイバーシティ アジア

1. 研究開始当初の背景

アンソニー・エリオット&ジョン・アーリ『モバイル・ライブズ』(ミネルヴァ書房)によれば、現代は「モバイル」な特徴を有するに至っており、それに伴って私たちも「モバイルな生」を生きつつあるとされる。このようなグローバルでモバイルな現代社会にあって、人々は、自分たちのものとは異なる価値観・文化・経験・民族・性・階層・信仰等に会うことになる。このことは欧米諸国に限定されたことではなく、アジアの諸地域においても同様である。否それは、むしろマレーシアやシンガポールにおける民族の多様性を思い浮かべてみるまでもなく、アジアの諸地域においてこそ顕著にみとめられるのである。

だがグローバルなアジア世界を多様な他者ととも生きるためには、「開かれた思考」こそが必要になる。「開かれた思考」とは、境界を越えていく経験をする中で、これまで培ってきた自らの文化・価値観・信仰等のすべてが相対的なものに過ぎないと認め、「差異性」や「新奇性」を積極的に受け容れていこうとする思考である。こうした「開かれた思考」を醸成し、アジアに生きる人々が相互の多様性(ダイバーシティ)をふまえつつ、自らと異なる他者と共生していけるのかを考えることが、人文・社会科学においては喫緊の研究課題となっている。観光研究においても、それは重要な学術的「問い」である。そこでは、「異なる価値観・文化・経験・民族・性・階層・信仰等を有する人々が共生するうえで、観光はどのような役割を帯びているのか」を考察することが強く求められている。

上記のことを明らかにする上で、ダークツーリズム研究は有効なアプローチとされてきた。「ダークツーリズム」とは、戦争や災害の記憶・歴史を後世に伝え、人類の“悲しみ”や“苦しみ”を理解しようとする観光である。戦争の時代・地域を生きた人とそうではない人、テロによって傷ついた人とそうではない人、地震・津波・台風等の自然災害によって傷ついた人とそうではない人、差別をうけた人とそうではない人、深刻な貧困にあえぐ人とそうではない人——こうした人々が価値観や経験・体験の違いを越えて、相互に他者として共生するうえで、ダークツーリズムは一定の役割を果たすものであると言える。申請者も立命館大学人文科学研究所重点プロジェクト「グローバル化とアジアの観光」(2014年度~2015年度)、それを発展させた立命館大学人文科学研究所重点プロジェクト「グローバル化とアジアの地域」(2016年度~2019年度)、科研基盤(C)「アジアにおける平和の記憶を紡ぐメディアとしてのダークツーリズム」(2017年度~2019年度)等において、モビリティ時代のアジア社会におけるダークツーリズム研究を展開してきた。

しかしながら研究結果から、他者に寄り添い共生することを志向する観光は決してダークツーリズムにとどまるものでないことが明らかとなってきた。もちろん戦争・テロ・自然災害・差別・貧困の体験の有無を越えて、人々が相互に他者に寄り添い共生するうえでダークツーリズムは今なお有効である。だが、それだけではなく、LGBTQIA+をはじめとする性の違い、民族・信仰等の差異や障害の有無を越えて、人々が他者として寄り添い共生する観光について議論・構築することも喫緊に必要とされている。

こう考えたときに、もはや「ダークツーリズム」という枠組み自体を再考・拡張することを観光研究は迫られているのだと結論するに至った。それは、モビリティ時代のアジアに生きる人々がダイバーシティ(多様性)をしたたかに有しつつ、価値観・文化・経験・性等における多様な差異を越えて他者と共生していくために、どのようなパフォーマンス(振る舞い)が大切なのかを考えていく観光の考察となる。申請者は、これを「ポリフォニック・ツーリズム」研究として彫琢していきたいと考えている。「ポリフォニー」とは、ロシアの思想家・文芸批評家であるミハイル・バフチンによって提唱された、異質で多様な人びとの声で紡がれている社会のあり方を焦点化する概念である。「ポリフォニック・ツーリズム」にあっては、異質で多様な他者同士が、ときに対立する複数の記憶や歴史をぶつけ合いながら、不透明で矛盾を孕んだダイアロジックなコミュニケーションの中で共生を模索していくことが目指される。

2. 研究の目的

上記の学術的背景をふまえ、本研究では、アジア——とくに東アジアと東南アジア——の人々が、多様で異なる価値観・文化・経験・民族・性・階層・信仰等を越えて、ダイバーシティを有しつつも、①「現在、観光を契機にして、いかにしたたかにグローバルでモバイルなアジア世界の中で相互に共生することができているのか」、②「できていないのだとすれば、それは何故どのようにして、できていないのか」、③「そして今後いかにポリフォニック・ツーリズムを洗練させていけるのか」を綿密な理論研究・アジアの厚いフィールド調査を通じて明らかにすることを目的とした。

こうした研究は、これまで個々別々に行われており、共通した研究プラットフォームで展開されることはなかった。ダークツーリズム研究の流れを振り返るなら、ジョン・レノン&マルコム・フォーレーによる雑誌『International Journal of Heritage Studies』に掲載された論稿以来、ダークツーリズム研究は、戦争・テロ・自然災害・差別・貧困の体験の有無を越えて、人々が相

互に他者に寄り添い共生する上で観光がいかに貢献し得るのかを議論しようとしてきた。その一方で、性・民族・信仰等の差異を越えて人々が他者として寄り添い共生するうえで観光がいかに貢献し得るのかは、ダークツーリズム研究とはまったく別の文脈でそれぞれ議論されてきた。

それゆえ、「ポリフォニック・ツーリズム」研究という共通した研究プラットフォームのもとでこれらを議論し、「開かれた思考」のもとアジアにおいて私たちが「ダイバーシティ」を実現しようとするために、観光の有する役割を明確にすることが本研究の独自性となる。こうしたものすべてを共通に議論できる新たな研究プラットフォームを確立・提供することが、アジアの共生を模索するうえでも重要となり、観光研究全体に対しても大きく寄与し得ると言えるだろう。

3. 研究の方法

本申請においては、ポリフォニック・ツーリズムについて理論研究とフィールド調査の両面から研究を進めていった。まず理論研究では、「ポリフォニック・ツーリズム」研究に関して、概念的な定義や枠組みを含め理論的基盤の確立を目指した。

同時並行的に、各自が「ポリフォニック・ツーリズム」に関わる、アジアの厚いフィールド調査を展開した。そうした厚い調査の成果を、より洗練した理論へと発展させるべく、研究会において理論へと逆照射していく。

このように日本・韓国・台湾などの東アジアと、カンボジア・マレーシア・シンガポール・インドネシアなどの東南アジアを主なフィールドとしつつ、戦争体験の有無、災害体験の有無、性の違い、民族的差異、障害の有無を越えて人々が他者に寄り添い共生していく観光とは、いかなるものであるのかを模索した。その研究成果をもってポリフォニック・ツーリズム研究を確立させることを志向し、この成果について広くアウトリーチを行い、社会に成果を積極的に還元させていった。

4. 研究成果

ポリフォニック・ツーリズムの役割は、グローバルに拡大したオフショア化された市場の恩恵に浴している人びとの日常をいったんカッコにいれさせ、その状況を再帰的に考え直させていき、「他者に寄り添い共生するゲーム」を可能にすることにある。戦争の時代や地域を生きた人とそうではない人、テロによって傷ついた人とそうではない人、地震・津波・台風等の自然災害によって傷ついた人とそうではない人、差別をうけた人とそうではない人、深刻な貧困にあえぐ人とそうではない人——こうした人びとが相互に他者として寄り添い共生するゲームを形成するうえで「ポリフォニック・ツーリズム」は大切なものとなるだろう。

たとえばカンボジアの古典舞踏を通じて、ゲイの人びとが観光客たちと「他者に寄り添い共生するゲーム」を形成していくとき、私たちはそうした観光のことも「ポリフォニック・ツーリズム」の枠組でとらえていくことが必要であろう。このように多様な性を有する人同士、さらにそれだけではなく、多様な文化・民族的背景を有する人同士も、他者として寄り添い共生するゲームを形成できる観光を目指すことがいま必要とされているのである。それは、モバイルな現代社会に暮らす人びとがダイバーシティ（多様性）をしたたかに有しつつ、様々な国・文化・民族・性等を背景に、他者と共生していくために、どのようなパフォーマンス（振る舞い）が大切なのかを考えていく観光となるはずだ。

「ポリフォニー」とは、ロシアの思想家・文芸批評家であるミハイル・バフチンが提唱した概念である。彼は、多様なメロディやリズムによって紡がれる多声音楽（ポリフォニー）のように、社会が異質で多様な人びとの声で紡がれているあり方を浮彫にしようとした。「ポリフォニック・ツーリズム」にあって、観光は一つの記憶、一つの歴史のもとで、“悲しみ”や“苦しみ”を「モノログ」的に綴るのではない。そうではなく、そこでは異質で多様な他者同士が、ときに対立するような複数の記憶や歴史をぶつけ合いながら、不透明で矛盾を孕んだコミュニケーション（ダイアログ）の中で浮かびあがるゲーム（舞台）を収束させることなく展開していくことが目指されるのである。

いまや観光研究者は、「ポリフォニック・ツーリズム」という枠組みのもと、「そのツーリズムのかたちがアジアをはじめとする世界各地でどのように展開＝実現されつつあるのか」「その際にはどのような論点を内在させつつあるのか」「そうした論点をいかに考え抜いていくべきなのか」——これらのことを真摯に志向すべき時期に来ている。本研究では、一定程度ではあるが、そうしたことを可能ならしめることができた。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計24件（うち査読付論文 15件 / うち国際共著 1件 / うちオープンアクセス 18件）

1. 著者名 遠藤英樹	4. 巻 34
2. 論文標題 「ツーリズム・モビリティの社会理論」を志向する観光学 観光的（ツーリストティック）な社会の学	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 立命館地理学	6. 最初と最後の頁 33-42
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 遠藤英樹	4. 巻 134
2. 論文標題 感情労働2.0 パンデミック以後の日本の観光産業における労働の新たな形態	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 立命館大学人文科学研究所紀要	6. 最初と最後の頁 3-23
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.34382/00018069	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Takayo OGISU, Saori HAGAI	4. 巻 53(1)
2. 論文標題 Localizing transnational norms in Cambodia: cases of ESD and ASEAN citizenship education	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Compare: A Journal of Comparative and International Education	6. 最初と最後の頁 1-18
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1080/03057925.2023.2170696	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 薬師寺浩之	4. 巻 10(2)
2. 論文標題 観光者の問題行動を読み解く	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 観光学評論	6. 最初と最後の頁 131-146
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 薬師寺浩之	4. 巻 134
2. 論文標題 孤児院ボランティアツーリズムを問い直す 規範的アプローチを超えて	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 立命館大学人文科学研究所紀要	6. 最初と最後の頁 183-213
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.34382/00018075	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 間中光	4. 巻 11 (1)
2. 論文標題 観光のレジリエンスを再考する 自然災害・感染症拡大に対するムラピ山住民の生存戦略を手がかりに	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 観光学評論	6. 最初と最後の頁 31-43
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 遠藤英樹	4. 巻 131
2. 論文標題 風に吹かれて : 中動態としてのフィールドワークによる「新しい実在論」	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 立命館大学人文科学研究所紀要	6. 最初と最後の頁 9-36
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.34382/00015950	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 遠藤英樹	4. 巻 10(1)
2. 論文標題 ライティング・ツーリズム 新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) 以後の観光研究	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 観光学評論	6. 最初と最後の頁 17-29
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 羽谷沙織	4. 巻 63
2. 論文標題 カンボジア古典舞踊ロバム・ポランの継承にみる芸道の徒弟教育 王立芸術大学とディアスポラ民間舞踊学校の比較から	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 比較教育学研究	6. 最初と最後の頁 134-155
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 羽谷沙織	4. 巻 15
2. 論文標題 フランス植民地期におけるカンボジア宮廷舞踊と舞踊継承の学校教育化	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 アジア教育	6. 最初と最後の頁 9-21
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 藤巻正己	4. 巻 131
2. 論文標題 <追想>あるマレーシア研究者のフィールド経験 : ジオグラファー×フォトグラファーの「語り」	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 立命館大学人文科学研究所紀要	6. 最初と最後の頁 91-112
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.34382/00015953	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 山本理佳	4. 巻 131
2. 論文標題 フィールドワーク的観光の可能性 親密性をめぐる一試論	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 立命館大学人文科学研究所紀要	6. 最初と最後の頁 135-154
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.34382/00015955	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 轟博志	4. 巻 13(1)
2. 論文標題 申景濤『山水考』と『山経表』の内容比較	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 韓国古地図研究	6. 最初と最後の頁 95-112
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 轟博志	4. 巻 56
2. 論文標題 全国地理誌に現れた済州島の位置づけ	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 済州島研究	6. 最初と最後の頁 77-92
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 葉師寺浩之	4. 巻 131
2. 論文標題 観光研究におけるネットノグラフィー調査の可能性	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 立命館大学人文科学研究所紀要	6. 最初と最後の頁 181-214
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.34382/00015957	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 間中光、藤山一郎	4. 巻 131
2. 論文標題 ボランティアツーリズムのオンライン化は誰を資するのか : コロナ禍における海外ボランティアから問う「フィールド」の含意	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 立命館大学人文科学研究所紀要	6. 最初と最後の頁 215-240
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.34382/00015958	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 遠藤英樹	4. 巻 125
2. 論文標題 アフター=ウィズCOVID-19の観光の可能性 「リスクの贈与」から「歓待の贈与」への弁証のために	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 立命館大学人文科学研究所紀要	6. 最初と最後の頁 3-22
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.34382/00014207	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 神田孝治	4. 巻 125
2. 論文標題 COVID-19時代のツーリズム・モビリティーズと場所 2020年における与論島の状況に注目した一考察	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 立命館大学人文科学研究所紀要	6. 最初と最後の頁 49-76
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.34382/00014209	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 葉師寺浩之	4. 巻 125
2. 論文標題 新型コロナウイルス感染症がもたらした危機からの観光の回復と危機を契機とした変化・変革をめぐる論 点の整理	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 立命館大学人文科学研究所紀要	6. 最初と最後の頁 151-184
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.34382/00014213	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 藤巻正己	4. 巻 125
2. 論文標題 世界遺産地区ベナン・ジョージタウンにおける「大衆観光地化」批判 COVID-19を契機として脱観光的 / 節度ある観光地へと仕切り直すべきだ!	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 立命館大学人文科学研究所紀要	6. 最初と最後の頁 185-223
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.34382/00014214	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 山本理佳	4. 巻 125
2. 論文標題 日本における観光ガイド / ガイドツアー研究の現状と課題	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 立命館大学人文科学研究所紀要	6. 最初と最後の頁 225-249
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.34382/00014215	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 韓準祐	4. 巻 125
2. 論文標題 地域観光に関連する認定・登録制度がもたらすもの	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 立命館大学人文科学研究所紀要	6. 最初と最後の頁 251-284
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.34382/00014216	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 間中光	4. 巻 125
2. 論文標題 コミュニティ・ベースド・ツーリズムをめぐる認証と応答 インドネシア・スレマン県の観光政策に関する初歩的考察	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 立命館大学人文科学研究所紀要	6. 最初と最後の頁 285-313
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.34382/00014217	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 羽谷沙織	4. 巻 125
2. 論文標題 カンボジア古典舞踏ロバム・ボランの継承におけるクメール系ディアスポラの影響	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 立命館大学人文科学研究所紀要	6. 最初と最後の頁 315-341
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.34382/00014218	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計21件（うち招待講演 8件 / うち国際学会 11件）

1. 発表者名 Hideki ENDO
2. 発表標題 Digital revolution and transformation of Japanese tourism industry after COVID-19
3. 学会等名 THE FUTURE OF WORKFORCE IN THE TOURISM, HOSPITALITY AND EVENTS INDUSTRY, 2022 Curtin University's Tourism Research Cluster (TRC) and Future of Work Institute (FOWI) Symposium (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 遠藤英樹
2. 発表標題 観光のゼマンティック デジタル革命と結びつき新たに構築されるツーリズム・モビリティ
3. 学会等名 日本記号学会第42回大会 (招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 遠藤英樹
2. 発表標題 情動、空気、ツーリズム・モビリティーズのデジタル化
3. 学会等名 立命館大学と南オーストラリア大学との研究協力協定 締結記念カンファレンス 「モビリティーズとデジタル革命」 (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 遠藤英樹
2. 発表標題 ツーリストの欲動を / が駆動する観光=メディアの精神分析
3. 学会等名 観光学術学会 第10回研究集会 (招待講演)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 遠藤英樹
2. 発表標題 「ツーリズム・モビリティーズ、デジタル・テクノロジー、情動」の社会理論
3. 学会等名 立命館大学と南オーストラリア大学との研究協力協定カンファレンス 「『モビリティーズとデジタル革命』の新たな社会理論」(国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 神田孝治
2. 発表標題 観光学3.0を探求する ジョン・アーリによる観光研究の考察を通じて
3. 学会等名 立命館大学と南オーストラリア大学との研究協力協定カンファレンス 「『モビリティーズとデジタル革命』の新たな社会理論」(国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 轟博志
2. 発表標題 朝鮮半島院宇立地の通時性
3. 学会等名 年例学術大会(国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Hiroshi TODOROKI
2. 発表標題 Roads as part of early modern Korean imaginative geography
3. 学会等名 T2 M 20th Annual Conference Padua (Italy)(国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 轟博志
2. 発表標題 明清代における満州地域の陸上交通路
3. 学会等名 北東アジアの交通史と移動経験
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 轟博志
2. 発表標題 旧満州地形図に現れた清代駅路の線形特性
3. 学会等名 文化歴史地理学会年例学術大会（国際学会）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 轟博志
2. 発表標題 済州 日本交流2千年の歴史と未来
3. 学会等名 済州学会年例学術大会（国際学会）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 間中光
2. 発表標題 不確実な世界における地域と観光 レジリエンス概念を用いた災害・感染症対応の事例分析から
3. 学会等名 観光学術学会第11回大会シンポジウム「COVID-19とツーリズムへの問い」（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Hideki ENDO
2. 発表標題 Potential of Tourism both Post- and During-COVID-19: For the Dialectic Demonstration of Shifting from “Gift of Risk” to “Gift of Hospitality”
3. 学会等名 7th Annual Conference of EATSA (Euro-Asia Tourism Studies Association) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 遠藤英樹
2. 発表標題 新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) 以後の観光の可能性
3. 学会等名 観光学術学会大会第10回大会 (招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 羽谷沙織
2. 発表標題 カンボジア古典舞踊口バム・ボランの継承におけるわざの習得 王立芸術大学とディアスポラ民間舞踊学校の比較から
3. 学会等名 第57回日本比較教育学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Saori Hagai
2. 発表標題 The Innovative role of vanguard diaspora in Khmer classical dance
3. 学会等名 CESA 12th Biennial Conference (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Saori Hagai
2. 発表標題 Cambodia-Thailand Cross-Border Education: Poverty, Vulnerability and Childcare Nexus
3. 学会等名 CESA 12th Biennial Conference (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 羽谷沙織
2. 発表標題 仏領期カンボジアにおける 文化政策と宮廷舞踊の学校化
3. 学会等名 日本国際教育学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 轟博志
2. 発表標題 朝鮮国土の空間的アイデンティティ
3. 学会等名 文化歴史地理学会年例学術大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 薬師寺浩之
2. 発表標題 観光者の問題行動を読み解く
3. 学会等名 観光学術学会第9回研究集会 (招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 間中光
2. 発表標題 観光とエシックス 様々な探究の可能性 (コメンテーター)
3. 学会等名 観光学会第9回研究集会 (招待講演)
4. 発表年 2022年

〔図書〕 計12件

1. 著者名 遠藤英樹 (神田孝治、藤巻正己、山本理佳)	4. 発行年 2022年
2. 出版社 ナカニシヤ出版	5. 総ページ数 198
3. 書名 フィールドワークの現代思想 パンデミック以後のフィールドワーカーのために	

1. 著者名 木村至聖、田中英資、平井健文、森嶋俊行、山本理佳翻訳	4. 発行年 2023年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 368
3. 書名 【翻訳】ロドニー・ハリソン『文化遺産といかに向き合うのか 「対話的モデル」から考える持続可能な未来』	

1. 著者名 Toshifumi HIRATA (Saori HAGAI)	4. 発行年 2023年
2. 出版社 Springer	5. 総ページ数 325
3. 書名 Citizenship Education in the ASEAN Community	

1. 著者名 遠藤英樹	4. 発行年 2021年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 202
3. 書名 ポップカルチャーで学ぶ社会学入門 「当たり前」を問い直すための視座	

1. 著者名 宮入恭平、杉山昂平、神野由紀、歌川光一、桜井政成、園田碩哉、飯田豊、二宮浩彰、板津木綿子、山中雅大、野村駿、高橋かおり、上岡磨奈、須藤廣、執行治平、三浦倫正、早稲田みな子、遠藤英樹、青野桃子、劉潤、下山田翔	4. 発行年 2021年
2. 出版社 「趣味に生きる」の文化論 シリアスレジャーから考える	5. 総ページ数 183
3. 書名 ナカニシヤ出版	

1. 著者名 遠藤英樹編著（藤巻正己、神田孝治、間中光）	4. 発行年 2021年
2. 出版社 新曜社	5. 総ページ数 240
3. 書名 アフターコロナの観光学	

1. 著者名 神田孝治、森本泉、山本理佳編（薬師寺浩之、遠藤英樹）	4. 発行年 2021年
2. 出版社 ナカニシヤ出版	5. 総ページ数 232
3. 書名 現代観光地理学への誘い	

1. 著者名 須藤廣、遠藤英樹、高岡文章、松本健太郎編著（神田孝治）	4. 発行年 2022年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 244
3. 書名 よくわかる観光コミュニケーション論	

1. 著者名 アンソニー・エリオット著（遠藤英樹、須藤廣、高岡文章、濱野健訳）	4. 発行年 2022年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 360
3. 書名 デジタル革命の社会学	

1. 著者名 陳俊強、洪健榮主編（神田孝治）	4. 発行年 2021年
2. 出版社 國立臺北大學海山學研究中心・新北市立圖書館	5. 総ページ数 413
3. 書名 臺北州建州百年 在地化與國際化的視角	

1. 著者名 Hideki ENDO (ed.)	4. 発行年 2020年
2. 出版社 Routledge	5. 総ページ数 207
3. 書名 Understanding tourism mobilities in Japan	

1. 著者名 門林岳史、増田展大、秋吉康晴、飯田麻結、飯田豊、岩城覚久、遠藤英樹、大久保遼、喜多千草、佐藤守弘、清水知子、鈴木恒平、竹峰義和、田中洋美、橋本一径、浜野志保、原島大輔、福田貴成、堀潤之、前川修、馬定延、松谷容作、水嶋一憲、水野勝仁、光岡寿郎、毛利嘉孝、山本泰三、吉田寛	4. 発行年 2021年
2. 出版社 フィルムアート社	5. 総ページ数 287
3. 書名 クリティカル・ワード メディア論	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	韓 準祐 (Han Junwoo) (00727472)	多摩大学・グローバルスタディーズ学部・准教授 (32695)	
研究分担者	羽谷 沙織 (Hagai Saori) (10576151)	立命館大学・国際教育推進機構・准教授 (34315)	
研究分担者	間中 光 (Kenchu Hikaru) (30823546)	追手門学院大学・地域創造学部・講師 (34415)	
研究分担者	藤巻 正己 (Fujimaki Masami) (60131603)	立命館大学・文学部・授業担当講師 (34315)	
研究分担者	薬師寺 浩之 (Yakushiji Hiroyuki) (70647396)	奈良県立大学・地域創造学部・准教授 (24602)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	有田 理佳 (山本理佳) (Arita Rika) (70708073)	立命館大学・文学部・教授 (34315)	
研究分担者	轟 博志 (Todoroki Hiroshi) (80435172)	立命館アジア太平洋大学・アジア太平洋学部・教授 (37503)	
研究分担者	神田 孝治 (Kanda Koji) (90382019)	立命館大学・文学部・教授 (34315)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関